

○調査研究課題名「科学技術倫理教育システムの調査研究」

○代表者名「新田 孝彦」

○中核機関名「北海道大学」

調査研究の目標・概要

1. 目的

科学技術基本計画の「重要政策」では、研究者・技術者の倫理や説明責任とリスク管理が重視され、また、「基本理念」では、科学技術と社会のコミュニケーションの構築が掲げられている。こうした政策を実行する上で、高等教育機関は中心的な役割を果たすことが求められている。しかし、我が国では技術者倫理の導入が始まったばかりであり、米国の制度を参考しながらも我が国独自の技術者倫理を構築することが急務となっている。また、高等教育機関における倫理教育が産業界や社会の要請から乖離したものになることを防ぎ、産業界における倫理教育にも貢献するためには、倫理教育における产学連携システムを構築することも必要である。さらに、リスク管理に関する我が国の現行法規は十分なものであるとは言えず、必要な法整備を進め、法的規制と倫理教育の境界域を明確化することが必要である。

2. 内容

1. 我が国における科学技術に関する倫理的問題の事例 2. 企業や研究所における倫理教育の実態 3. 高等教育機関における倫理教育の実態を調査する。調査の内容を踏まえながら、産業界の要請に応え、社会とのコミュニケーションを促進しうる科学技術倫理教育システムのモデルを提示する。併せて倫理教育における产学連携システムを確立するための政策を提言する。さらに、リスク管理に関する必要な法的規制を提言し、法的制御と倫理教育が及ぶべき領域を整理することに努める。

3. 傾瞰的・融合的視点

科学技術者や企業が社会との有効なコミュニケーションを行いうるためには、社会における科学技術の機能や、専門家と非専門家とのリスクの捉え方の違いなどを理解する必要がある。それゆえに、産業界および高等教育において有効な科学技術倫理教育システムのモデルを提案していくためには、科学社会論、コミュニケーション理論、倫理学、リスク研究を統合することが求められる。また、リスク管理に関する倫理規範と法的制御の問題を検討するための法学的視点も要求される。

4. 一般からの意見の反映方法

産業界、技術者、地域住民に対するアンケート調査を行うとともに、公開シンポジウム・公開ワークショップを連続的に行うことにより、一般からの意見の反映に努める。また、研究者・学生・技術者・一般市民が参加する技術者倫理の模擬授業によって、専門家と非専門家のコミュニケーションのあり方についての実験的調査を行う。

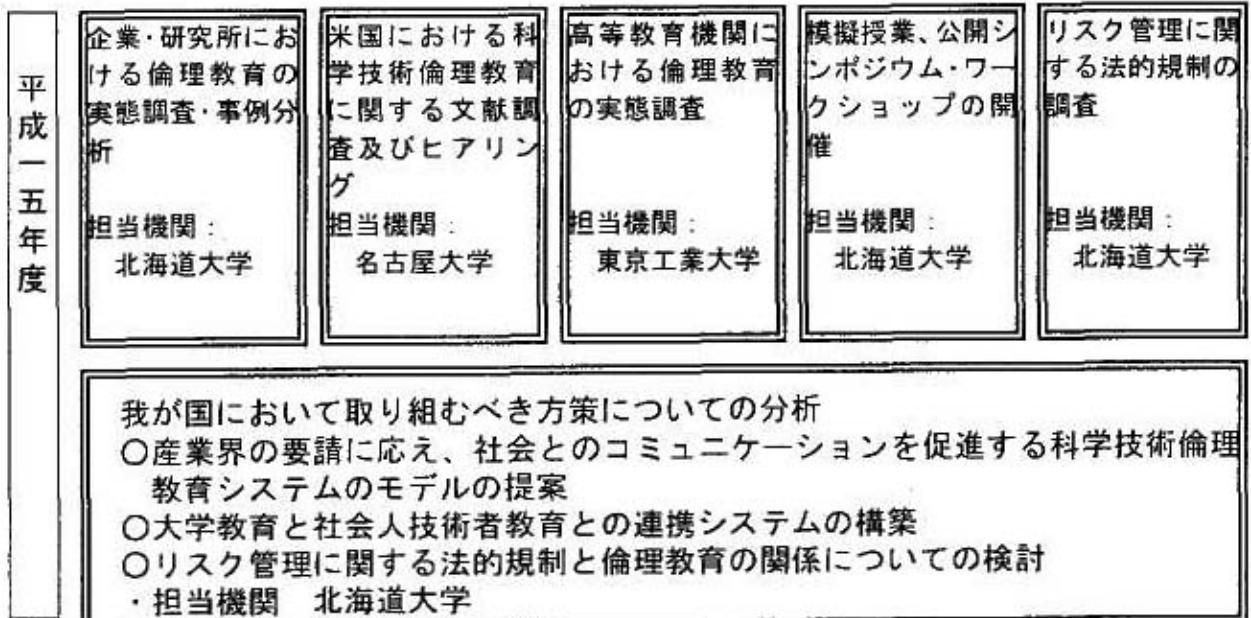
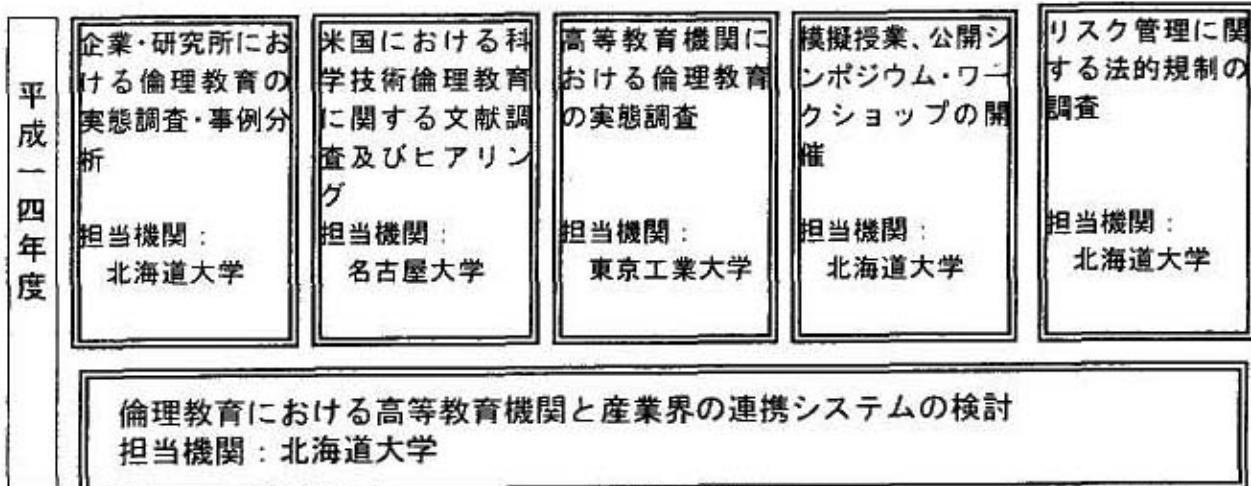
調査研究により期待される提言

- (1) 産業界の要請に応え、社会とのコミュニケーションを促進しうる科学技術倫理教育システムのモデルを提案する。
- (2) 倫理教育における产学連携システムを確立するための政策を提言する。
- (3) リスク管理に関する法的整備を進めるための政策を提言する。

調査研究体制図

- 調査研究課題名 「科学技術倫理教育システムの調査研究」
 ○代表者名 「新田 孝彦」
 ○中核機関名 「北海道大学」

科学技術倫理教育システムの調査研究



期待される提言

- (1) 産業界の要請に応え、社会とのコミュニケーションを促進しうる科学技術倫理教育システムのモデルを提示する。
- (2) 倫理教育における産業界と高等教育機関の連携システムを確立するための政策を提言する。
- (3) リスク管理に関する法的整備を進めるための政策を提言する。